

骨子案についての意見等のまとめ（審議会委員）

第4回環境審議会開催後にお寄せいただいたご意見等をまとめています。

質問	意見等
<p>1 (仮称) 小平市第三次環境基本計画の骨子案について</p>	<p>○エネルギー対策として創エネ、省エネについては現行の制度をさらに強力に進めていくことが必至。更に蓄電池の利用や電気自動車の推進は災害対策のうえからも有効なため支援策を検討してほしい。また、市民の関心が強い気候変動による対応策は防災対策や下水整備、緑化事業などと組み合わせた事業を策定し推進することが肝要と考えます。</p> <p>○循環型社会の形成においてはプラスチックごみ削減や食品ロス削減をテーマにその啓発普及や実践的な活動の取組を積み重ねていくことが大切と考えます。</p> <p>○環境問題は、行政だけで解決はできません。NPO、市民団体の協力（協働）が必要だが、更に関係する団体を自治会、学校、大学、企業、専門機関、福祉団体等に拡大することはできないでしょうか。今までは、講座、セミナーで来てもらうだけの受け身であったが、これだと興味のある人しか来ません。来る人は、黙っていても動きます。興味のない人にこそアプローチすべと考えます。その為にもっと幅広く団体を使えないでしょうか。</p> <p>○小平市所管の公共施設の太陽光発電施設の自立運転機能を整備できませんでしょうか。（現在進行中かもしれませんが）非常（停電）時の電気の確保は、災害対策はもちろんの事、気候変動適応策である国民生活（インフラへの影響）に該当すると思われる。</p> <p>○気候変動（地球温暖化）対策としては、2018年12月に施行した気候変動適応法に基づく気候変動適応策の早急な周知と実施が必要ですが、難易度も高いと思われます。緩和策と適応策のどちらも今からは必要であると思います。並行して進めていく必要があると思います。</p> <p>○「1-③気候変動への適応」に「防災対策の推進」、「都市整備における環境配慮」、「水循環の促進」が統合されることとなります。具体的な自然災害が顕在化してきている近年を見ると、市民の啓発に留まらない、具体的かつそれ相応の適応策が求められると思います。</p> <p>○啓発については、市民・家族等の属性にあったものにできないでしょうか。特に、若者世代は適応策。</p> <p>○環境基本計画について、市民への簡単な理解し易い資料（小冊子）のようなものを作る予定はあるのでしょうか。基本計画自体は、190円で購入可能ですが。</p> <p>○数値目標は、第2次環境基本計画のように設定する予定はあるのでしょうか。また、その進捗状況のチェック、見直しをする予定はあるのでしょうか。</p> <p>○1 地球温暖化・エネルギー対策 ③気候変動への適応 今後、頻発しうる災害の被害を想定し具体的に示すと、より理解がしやすくなるのではないかと思います。市民としても、起こりうる被害（道路の冠水・熱中症など）がイメージしやすく、いざという際の減災につながるのではと考えています。</p>
<p>2 (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画の骨子案について</p>	<p>○持続可能な社会と商業の振興にもつながるグリーンインフラの整備と活用を図り緑化増となる施策体系としてほしい。特にアンケート調査からもグリーンロードや玉川上水の緑化保全や環境整備を図る要望が多いことから引続きこれらを重要施策としあわせてこれらを軸とした生物多様性地域戦略を進めていくことが望ましいと考える。</p> <p>○グリーンロードのメンテナンス（樹木の植替え、まだ木が植えられていないところへの植樹 日陰対策）や小中学校の緑化（卒業生の記念植樹、屋上緑化（プランターでも）、校庭の緑化（難易度は高いと思いますが））公園も広場も必要だが、日陰が適度に確保された方がよいのでは（熱中症対策）。グリーンロードは緑のトンネルにすれば、夏の日中でも散歩できるかもしれません。</p> <p>○みどりを取り巻く課題 “みどりの質”については、令和元年度第4回審議会で、とにかく緑を増やしていきたいという事務局からの答えがあり、台風などの風による倒木や幹折れなどに対する今後の災害対策として、安全に配慮したみどりの増やす場所や種の選択が必要なのではないかと思います。生物多様性の面からは反してしまう点もあるかもしれませんが、ご検討よろしく願いいたします。</p> <p>○緑地の質の評価指標について、今回改めて、自治体の緑の基本計画を参照し、どういう指標が実際に取り入れられているか確認してみました。確かに、普及啓発の面からの評価も多く見られましたが、緑地の質そのものを評価する指標もいくつか確認できました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生タイプ区分 ・指標種（植物、鳥、昆虫）の出現割合 ・林冠構成種とその割合、など <p>○今回提示いただいた骨子案では、「森のカルテ」に関する記述が見当たりませんでした。上記のような評価につなげていくためにも、ぜひ、「森のカルテ」づくりを継続していただきたいと感じました。生物相の調査は継続してこそ、その変化を定量的に評価していくことができるため、一度カルテを作成した樹林地でも、数年後～5年後に再度調査することで、様々なことが見えてくると思います。（そのためにも、カルテづくりの際の調査では、確認種だけでなくその被度や個体数など定量的な数値も記録できると良いと思います。）</p> <p>○審議会で、草原に関して言及させていただきましたが、草原と雑木林は連続的なもので、伝統的な里山の土地利用としても薪炭林の中に、草原性植物が多く生育していたことも知られています。樹林地の保全の中に、こうした草原性生物に着目した指標を取り入れることも可能かと思えます。（カルテを拝見したところ、林床に草原性植物も記録されているようです。）</p>

	<p>○草原として維持管理されている場所に外来牧草が増えてしまっているというお話も伺いましたが、施肥や耕起された履歴を持つ場所では、土壌の理化学性が大きく変化してしまい、在来植物から構成されるもとの草原には戻りにくいことも知られています。ただ、草原性の昆虫相などにとっては、外来種が優占していても、生息地として意味があることも指摘されているため、在来植物から成る草原に再生することを目指しつつも、多方面からの評価をしていくことが重要かと思いました。</p> <p>○小平市第二次環境基本計画の生物多様性戦略部分にも関連してくる部分もあるかと思いますが、(特に生き物の実態把握に関して)引き続き、ご検討いただけると幸いです。</p>
<p>3 (仮称)小平市第二次下水道プランの骨子案について</p>	<p>○浸水対策を最優先事項とし各種の対策や計画を進めてほしい。また、東部分流地区の雨水管整備を早急に実施することや下水管の老朽化対策や保守点検等についてはAIなどによる技術革新の活用を図りその経費や人的負担を軽減していきたい。</p> <p>○今後の施策としてエネルギー有効利用のうえからも下水熱導入の研究を進め実現可能な施策として進めたい。</p> <p>○雨水浸透枿の処理能力は、1時間当たり10ミリと聞いています。1時間当たり50ミリの豪雨に対して、少しでも下水道(水再生センター)への負担軽減をすると共に、河川の増水防止に資すると思います。</p> <p>○雨水浸透枿のもう一つの効果として、土地の涵養に資すると思います。</p>
<p>4 その他骨子案以外で、お気づきの点があればご記入ください。</p>	<p>○環境基本計画、みどりの基本計画、下水道プランにおける学習・参加・協働においてはいずれも現場見学、実体験や具体的な作業を伴うものなどを組み入れて分かり易い内容とすることが良いと考えます。</p> <p>○環境問題は近接市町村との情報の共有化を図り連携強化による広域処理等の対応策が今後ますます必要になると思います。</p> <p>○施策(案)の下に更なる具体的な施策内容なものが策定されるのでしょうか。第2次環境基本計画では、環境施策の内容としてより具体的な施策内容が明示されていました。</p> <p>○「学びと協働の推進」については、これまでの試みに加えて、横断的な市民啓発のやり方を模索しては如何でしょうか。例えば、自治会との連携で地域住民への出前授業を試みるとか、将来の世代である中学・高校・大学へのアプローチをする。</p> <p>○市民に対するアンケート結果からは、多方面からのご意見をより具体的に感じる事ができ、参考になった。</p> <p>○市民参加の取組では、市民がより身近に自然環境の状況や問題を感じる事ができるため、このような取組の継続が今後も非常に重要と感じた。</p> <p>○余談にはなりますが、草原のような所で遊ぶことは子供たちにとって、とても貴重な体験であると思う一方で、小さい子供を持つ親としては、安全面での心配と遊びづらさもあります。たけのこ公園の丘エリアは日中、小さな子供が遊ぶ姿が良く見られます。草の短いところを残しつつ、範囲を決めて草を長くするなどしていただけると、とてもありがたいなと思っています。</p>